

■尾崎宗吉 作曲家。一晚で作曲した「小弦楽四重奏曲」で注目され、次々作曲するも、名曲「夜の歌」を遺して戦病死した。

おざきそうきち
21ヶ条要求・1915＝ 第一次世界大戦で日本のバブルが始まるなか、静岡県浜名郡舞坂町字弁天島で、開駅までもない東海道線弁天島駅前の裕福な老舗旅館{松月}を営む尾崎和作・まつの六男に生まれる。十人兄弟姉妹の末子。

原敬首相暗殺 1921＝ 6歳：家の近くの舞坂小学校に入学、胃薬を手放せない虚弱な子で、

護憲三派圧勝 1924＝ 9歳：ひどい百日咳に罹り、重度の肺炎にまでなる一方、音楽への強い関心が芽生え、

円本時代始 1926＝ 11歳：中学進学に向けて、越境入学の遠距離通学が苦痛になる、浜松の元城小学校に転校すべく、欲しかったオルガンを両親が買ってくれ、

共産党事件・1928＝ 13歳：県立浜松第一中学校に入学するが、病気がちで休むことが多く、

満州事変・ 1931＝ 16歳：3年からは療養のため、長期休学するも、欲しいレコードもすぐ買ってもらえる恵まれた環境のなか、

五一五事件・1932＝ 17歳：復学後は見違えるように健康になり、オルガンより木琴に熱中、父と付き合いの深かったヤマハ創始者山葉寅楠の縁で、日本楽器にあったアメリカ製シロホンを譲ってもらい、持ち歩くこともできたことから、のめりこんでいくと、音楽の才が知られるようになり、ラジオ放送が始まって数年、音楽が身近になるなか、浜松第一中学校の音楽祭を訪れた、浜松工業高校の教師兼音楽部顧問になっていた日本のテレビ開拓者高柳健次郎から高校の定期演奏会に出るよう誘われ、「ウィリアム・テル序曲」を弾いて拍手喝采、高柳の手配でNHKラジオでも流され、{松月}には親類縁者が集まって大騒ぎ、中学校では、のちの名映画監督木下恵介の弟で作曲家になる同級生木下忠司とハーモニカ部を作り、1か月後には、吹奏隊を結成するほど活躍。東京音楽学校受験を目指して、ピアノの練習を始める。

国際連盟脱退 1933＝ 18歳：
帝人疑獄事件 1934＝ 19歳：上京して、豊島区池袋に下宿、東京音楽学校の二次試験まで行きながら、尿に蛋白が出たため落第、徴兵猶予が適用されない、東洋音楽学校(現：東京音楽大学)のピアノ科に入学するや、この年ドイツより帰国して出講していた作曲家諸井三郎の目に止まるとともに、1年先輩で、のち著名な作曲家になる小倉翫と意気投合、親友兼ライバルになる。

芥川直木賞始 1935＝ 20歳：*作曲家諸井三郎の一番弟子のような存在になって和声学、対位法、音楽形式などを学び、たった一晚で「小弦楽四重奏曲 作品1」を作曲、作曲家連盟から解消された{日本現代作曲家連盟}の第一回試演会で発表、すでに若手のリーダー的存在になっていた山田耕作的のこの推播で、この年始まったばかりの東京音楽協会オーディションの公開演奏会で満場の拍手を浴び、一躍注目される。チェロ科の安部幸明と知り合い、早速教えて貰うやすぐに熟達、その魅力に惹かれ、その後の作曲に大きな影響。

二二六事件・1936＝ 21歳：品川区大井南の下宿に移り、「チェロとピアノの為に『幻想曲とフーガ』」、歌曲「初夏小品」、「ヴァイオリンソナタ第1番」を作曲、翌年、この三曲がラジオ放送JOAKの{現代日本の音楽}の「尾崎宗吉」で放送され評判、仲間に頼んで録音を貰い、私家版レコードを制作、

日中戦争始・1937＝ 22歳：東洋音楽学校を卒業、杉並区阿佐ヶ谷四丁目のアパートに移住、家主の縁戚郁子の娘にピアノを教えて、郁子と親しくなり結婚。園部三郎の紹介で{日本映画社}に就職し、ニュース映画のBGMを制作して生計。卒業するとともに、{日本現代作曲家連盟}に入会し、諸井の要請で総会の書記長になり、第二回作品発表会に「ヴァイオリンソナタ第1番」を発表、以後、生き急ぐような速さで作曲。管弦楽曲「3つの楽章」「チェロソナタ第5番」を発表し、来日したローゼンシュトックに指揮の指導を受け、音楽への哲学的信条を学ぶ。

健保+総動員 1938＝ 23歳：この年の{音楽評論}で、登場当時のことを、'何ら考えることなく、書かずにはいられず、作曲していた'と語っている。志をともにする、小倉、安部、園部、深井史郎らと楽団{プロメテ}を結成し、第一回の演奏会で、「ピアノの為にソナチネ」「ヴァイオリンソナタ第2番」を発表、

第二次大戦始 1939＝ 24歳：第二回の演奏会に、「ヴァイオリンソナタ第3番」を出品したが、召集され、津田沼鉄道連隊に入隊、

大政翼賛会・1940＝ 25歳：{日本現代作曲家連盟}に創設された第一回室内楽賞が贈られるも、北中国および南方戦線に派遣され、自ら聴くことができず、{プロメテ}も解散、

日米開戦・ 1941＝ 26歳：軍隊のなかでも、音楽家として知られ、大隊長から頼まれ、彼の詩に曲をつけて、「鉄道六連隊の歌」になる一方、軍人たちに、流行歌が深く浸透していることに驚く。

..... 1942＝ 27歳：満期召集解除で、一旦弁天島に帰郷後、再び、{日本映画社}に勤務し、

創価学会検挙 1943＝ 28歳：*映画「海軍病院船」の音楽を作曲し、楽譜は失われたものの、「ピアノ変奏曲」、歌曲「逝く秋」、「ヴァイオリンソナタ第4番」を諸井邸で試演した記録が残るが、再び召集され、満州および中国戦線に出征、その間長男日雄が誕生するもすぐに死去、生きては帰れない運命を認識してか、敬愛するチェリスト三鬼日雄に、妻郁子に感謝するような、聴く者の心を引き込む遺言となる名曲「チェロとピアノの為に『夜の歌』」を遺して、

敗戦・ - - - 1945＝ 30歳：江西省全県の陸軍病院で、虫垂炎のため、没した。

窪島誠一郎「夜の歌：知られざる戦没作曲家・尾崎宗吉を追って」、